

多賀城創建1300年を契機として

目指せ！日本一暮らし
やすいまちを

多賀城市は、宮城県のほぼ中央、太平洋岸に位置し、政令指定都市の仙台市や漁港で有名な塩竈市、日本三景の松島町に隣接しています。土地はおおむね平たんで、過ごしやすく、住宅都市として発展してきました。

面積は小さな市の部類に属しますが、北関東以北では、第1位の人口密度を誇ります。

「多賀城」の由来

本市の名前は、神亀元年(724年)に創建され、陸奥国府が置かれるなど、古代東北の政治・文化の中心として繁栄した「多賀城」にちなんでいます。その名は、「賀(よろこ)び多(た)き城」と読むことができますよ



重要な政務や儀式が行われた多賀城政庁跡

うに、東北の安寧を願って造られた城といわれています。

そして、今年誕生150周年を迎えた宮城県の県名の由来の一つともいわれています。

本市のアイデンティティーである多賀城跡は平城宮跡、大宰府跡と共に日本三大史跡に数えられ、

遺跡の国宝とも言うべき「特別史跡」に指定されています。

また、多賀城の創建を刻む多賀城碑(重要文化財)は、多賀城という名を記した最古の資料であり、その歴史的価値や学術的価値はもとより、古代日本、ひいては古代東アジア情勢を映し出す鏡として重要性が増しています。

黒く輝く特産品「古代米」

特別史跡多賀城跡や周辺の遺跡から「黒舂米」と書かれた木簡が出土しています。この木簡は米袋に付けていたと考えられ、この地で遠い昔から米を作付けしていたということを裏付けます。この歴史的な背景を受け、現在では稲の原種に近い「古代米」というお米を、多賀城市の特産品として認定しています。

また、多賀城碑のすぐ近くの水田では、近辺の小学校の5年生が古代米の体験学習を行っています。多賀城の歴史を肌で感じることで視野が広がり、郷土への理解と愛着を深めるきっかけになればと思っています。

また、昔から栽培していたとされる古代米の稲作体験を通じて、食の文化を知り、食の大切さを学ぶことで、その経験を未来へつないでいってほしいと願っています。

創造的復興「東北随一の文化交流拠点」

平成23年3月11日東日本大震災から11年が過ぎ、今でこそ穏やかな暮らしを取り戻しつつありますが、当時の被害は、地域の3分の1が大津波によって浸水。犠牲となられた市民の方々には156名、住家被害は1万戸を超え、いたるところが大量のガレキによって埋め尽くされ、一時は1万2000人を超える方々が避難生活を余儀なくされました。

現在まで、全国各地の皆さまからのご支援とご協力に支えられ、市民一丸となって、震災前よりも良いまちにするため、「第六次多賀城市総合計画」に掲げる将来都市像「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」の実現に向けて、創造的復興の歩みを進めています。文化のチカラによって結びついた市民の自発的活動がまちへの誇りや愛着を育み、それが真に豊かなまちを創るとの信念の下、多くの方が集い、交流し、新たな出会いと発見をすることができると、そんなまちを目指して、今まさに東北随一の文化交流拠点づくりを進めています。

多賀城創建1300年記念事業

東北のはじまり、宮城のはじまりともいえる多賀城が2024年、創建1300年という記念す

つなぐ、つなげる。1300年。



多賀城創建記念
TAGAJI 1300th Anniversary
724-2024

公募で選ばれた
ロゴマーク・キャッチフレーズ

べき年を迎えます。1300年という長い間に、連続と培われてきた悠久の歴史や文化、そして多様な人々の営みは、東北だけではなく、日本の歴史を語る上でも大変貴重な財産です。

こうした多賀城ならではの唯一無二の個性を生かし、経済的な豊かさばかりでなく、精神的にも豊かな自立したまちを目指し、多賀城創建1300年を記念して多様なイベントを計画しています。

その一つとして、2024年の公開に向け、多賀城南門と築地塀の復元工事を実施しています。復元する南門は、多賀城の表玄関に当たる重要な施設とされていたも



高さ14mある二重門の南門復元イメージ

ので、宮城県による周辺環境整備と一体的に整備が進められています。そのほか、本市固有の歴史・文化・アートを生かした種々の文化プログラムも計画していますので、皆さまぜひお越しください。

つなぐ、つなげる。1300年。

将来都市像「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」の実

プロフィール

- ◆ 面積 19・69km²
- ◆ 人口 6万2570人
- ◆ 世帯数 2万8404世帯

〔将来都市像〕「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」

〔まちの特徴〕1300年の歴史と新たな挑戦が共存する、都市と自然の調和がとれた、日本一住みやすいまち

〔特産品〕古代米、古代米酒、特別栽培米純米酒、多賀城みそ、洋ラン、多



多賀城市長
深谷晃祐



賀城グルメブランド「しろのむらさき」認定商品

〔観光〕特別史跡多賀城跡附寺跡（日本三大史跡）、多賀城碑（日本三古碑）、末の松山などの歌枕の地（日本遺産）、市立図書館（年間120万人来訪）、文化センター（評価の高い音響のホール）、東北歴史博物館

〔イベント〕多賀城跡あやめまつり、史都多賀城万葉まつり など

現には、市民一人一人が地域課題の解決のために自ら考え行動することが大切で、そんな風土をまちの文化にしたいと願っています。多賀城創建1300年はゴールではなく、新たな未来へ踏み出すためのスプリングボードとするための取り組みを進めてまいりますので、さまざまな形でご支援いただければと思います。皆さまのお越しをお待ちしています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

みんなが豊かさを実感できるまちを目指して

四季折々の自然が彩るまち

茨城県の北東部に位置する高萩市は、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系南端の多賀山地が連なる、海と山の自然に恵まれたまちです。海には万葉集にも詠まれた

美しい入り江

や白砂青松の美しい海岸線

があり、山では春の新緑や

秋の紅葉をはじめとする四

季折々の景観が楽しめます。

県内で最も大きい小山

ダム周辺にはアウトドア

フィールドが



花貫溪谷にかかる汐見滝吊り橋

設けられ、さまざまなアクティビティを体験できます。また、地理学者の長久保赤水や、ソメイヨシノの学名を付けた植物学者の松村任三を生んだ歴史と文化のまちでもあります。

地理学者「長久保赤水」

本市出身の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）は、20余年の歳月をかけて膨大な地誌的資料を編集し、近代的な日本図（赤水図）を完成させました。この赤水図には天文学のデータが活用されており、多くの地名や河川などが詳細に示され、当時としては画期的な精度を誇るものでした。発刊から約100年にわたり版を重ねた赤水図は国内外で使用され、日本国土の理解に大きな役割を果たしております。



改正日本輿地路程全図（赤水図）

令和2年9月、赤水の遺した資料群が国の重要文化財に指定され、国民的財産に位置付けられました。現在、本市では貴重な資料の修復とデジタル化を進めており、顕彰事業の推進を図っているところです。市歴史民俗資料館で

は、所蔵している貴重な資料の一部を展示しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

アウトドアのまち たかはぎ

本市は、紅葉で有名な花貫溪谷や、変化に富んだ海岸線といった豊かな自然環境に恵まれています。観光入込客の約7割は秋の花貫溪谷に集中しているため、滞在時間が短く、市内での交流や経済効果が少ないことが課題です。この課題解決に向け、本市では、地域の80%を占める山間部を活用した滞在型観光の推進を目的に、「アウトドアのまち たかはぎ」をスローガンに掲げ、民間事業者と共にアウトドア・アクティビティの充実を進めています。

平成30年8月には、茨城県最大のダムである小山ダムの敷地や、周辺の3haの県有地・市有地を活用した「高萩アウトドアフィールド『はぎビレッジ』」の整備に着手しました。令和元年7月には、小



茨城県最大のダム湖「こやま湖」



高萩アウトドアフィールド「Hagi Village」

山ダムの湖面を活用したカヌーやサップ、グランピングやキャンプが楽しめる「ストームフィールドガイド店はぎビレッジ」が、ストームフィールドガイドによってオープンしております。

また、本年5月には、ブッシュクラフト（自然環境の中における生活の知恵）が楽しめるキャンプ場

「Bush & Lake in はぎビレッジ」を、ブッシュクラフト株式会社で運営でプレオープンして

います。今後は、テントサイトを拡大するための整備を進めていきます。

AIを活用した 乗り合いデマンドバス 「My Rideのるる」

市街地の路線バスは、採算の悪

化から便数が減り、さらに採算が悪化するという悪循環に陥っており、持続的な公共交通の確保が困難になっていました。その一方で、高齢化の進展により運転免許証を返納する市民も増加しており、公共交通の充実を求める声も増えていきました。このような状況を改善するため、令和3年7月より、日中の高齢者の買い物や通院の足として活用することを想定した、ダイナミックルーティングシステムを導入した乗り合いデマンドバス「My Rideのるる」の実証運行を、乗客が比較的少ない日中の路線で開始しました。

「My Rideのるる」は、スマホアプリまたは電話からの予約に応じて運行し、予約状況に合わせてAIが車両のルートやスケジューリングを算出し、効率的な配車、運行を行います。また、仮想バス停を増設することにより、既存のバス停以外からも乗降でき、定時・定路線バスでは拾いきれない移動需要に対応可能です。現在は4台のバスで稼働しています。仮想バス停は141カ所増設しており、既存のバス停と合わせると237カ所での乗降が可能となっています。

本市では、本年10月からの本格運行に向け、より良いものとなるようデータを積み上げていきます。

今後「My Rideのるる」が定着すれば、高齢者は移動手段を誰かに頼ることなく、自分の力で通院や買い物などができるようになります。市民の皆さんが住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしていくために必要な施策と考えておりますので、今後も事業者と協議をしつつ、利用しやすい環境整備を進めてまいります。

市民の誰もが笑顔で暮らすこと

プロフィール

- ◆ 面積 193.58 km²
- ◆ 人口 2万7087人
- ◆ 世帯数 1万2733世帯

〔将来都市像〕地域力が笑顔を育むまち高萩

〔まちの特徴〕海あり山ありの雄大な自然、歴史と文化が息づくまち



高萩市長
大部勝規



- 〔特産品〕フルーツほおずき、つつきいちご、みそ、納豆
- 〔観光〕さくら宇宙公園、花貫渓谷、高戸小浜海岸
- 〔イベント〕元旦神輿渡御、紅葉まつり



「My Rideのるる」パンフ表紙

ができる「地域力が笑顔を育むまち高萩」の実現のため、これからも時代の変化に柔軟に対応した持続可能なまちづくりを力強く推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

かしわら 柏原市（大阪府）

柏原市長 富宅正浩
ふけまさひろ

わが

すてきに出会えるまち、かしわら

自然と歴史が織りなす
「かしわら」の魅力

大阪の都心からわずか20kmほどの大阪府と奈良県との府県境に位置し、緑の山々や豊かな川の流れなど、府内でも有数の自然環境に恵まれた柏原市は、全

国でも指折りのぶどう産地として名をはせてきました。また、1級河川「大和川」の豊かな川の流れは、注染と呼ばれる技法で染められた浴衣や手拭いを生み出し、令和元年に「浪華本染め」として国の伝統工芸にも指定され、人気を博しています。

そして、歴史も奥深く、中でも「龍田古道」は『日本書紀』にも登場するほどの歴史ある古道で、聖徳太子とも関連が深いとされています。この古道は、山を越えずして奈良と大阪を結ぶ交通の要衝であり、国境（府県境）に位置する天然の関所が「亀の瀬」です。念願の「龍田古道・亀の瀬」日本遺産認定を令和2年

6月に成し遂げ、今まさに柏原市が輝きはじめています。
**輝きはじめてまちで
安心して子育てを**

人口減少は、本市においても大きな課題であります。そこで、人口を減らさず、子育て世帯が住みやすいまちを目指して、総合計画や人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。市長や特別職の給料カットに加え、市長の退職金をゼロに、そして公用車として利用していた黒塗りの高級セダンをオークションにより売却するなど、徹底した行財政改革を行うとともに、国に先駆けての5歳児の教育費無償化や18歳までの医療費助成など、積極的に改革を進めてきました。

そして、本市では特に子育て支

**子どもを輝かせられる
まちに**

援に力を入れています。子どもが生まれる前から出産や育児に備えた両親教室を開催し、出産後は産後ケアや乳幼児定期健診に加え、生後2、3カ月頃の赤ちゃんがいる全家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問」、そして生後7カ月から1歳半までの間に再度訪問する独自事業の「すくすく訪問」という2度の家庭訪問を行うことで、育児に関する相談や悩み事など、安心して子育てができる支援に取り組んでおります。

このような子育て支援の取り組みをきっかけに、子どもたちが成長する過程で輝きを増すためにも、本市の『宝』である「自然」と「歴史」を使わない手はありません。子どもたちの教育において、本市の「自然」と「歴史」は、伸び伸びと成長できる生きた教材となっておりまして。加えて、G I G



浪華本染め手拭い



柏原ぶどう



亀の瀬トンネルと亀のコーラ



「龍田古道」は『日本書紀』にも登場するほどの歴史ある古道で、聖徳太子とも関連が深いとされています。この古道は、山を越えずして奈良と大阪を結ぶ交通の要衝であり、国境（府県境）に位置する天然の関所が「亀の瀬」です。念願の「龍田古道・亀の瀬」日本遺産認定を令和2年

Aスクール構想による小中学生の児童生徒へのパソコン整備が新型コロナウイルス感染症対策に有用であるだけでなく、子どもたちの学びの幅を広げるアイテムとなっています。さらに、自身の持つ防災士の資格を生かし、防災にも力を入れており、小学校では大阪初の体験型防災教育を実施するなど、子どもたちが将来に役立つ取り組みも行っております。

輝くまち「かしわら」を多くの人に

一方で、子育て支援に限らず、「自然」を生かして本市の良さを再発見できる取り組みとして、「河川空間のオープン化」を目指しています。住民と合意形成を図りながら、河川敷で民間企業などが収益事業を行えるというものであり、大和川でさまざまな社会実験を繰り返し行っております。この取り組みが実現しますと、国が管理する河川においては、近畿初の事例となります。

日本遺産という「歴史」を生かした試みも含めたこのような取り組みを進める中で、地場



新庁舎と河川空間オープン化の取り組みの様子

産品であるぶどうなどを活用した観光イベントの実施や観光ルートの整備、ふるさと納税制度を活用した体験型コンテンツの開発などを行い、本市を知り、訪れたいくなるきっかけをつくっていきます。また、市内の大阪教育大学や関西福祉科学大学との連携により、まちづくりの担い手として学生に地域課題解決の事業に参画してもらうことで、これからの社会を担っていく若い世代の思いを積極的に取り入れ、より一層輝くまち「かしわら」をつくり上げてまいります。

「輝くまち」を「選ばれるまち」に

本市は、約50年ぶりに新庁舎を建設し、令和3年5月から供用を開始いたしました。災害時には防災拠点として機能しつつ、2階には芝生の緑を感じながら憩うことのできるテラスを完備し、風光明媚な景色と爽やかな風を感じてもらえるような、自然を生かした設計となっております。そして、この自然を感じるこ

と、この自然を感じるこ

プロフィール

- ◆ 面積 25・33 km²
- ◆ 人口 6万7367人
- ◆ 世帯数 3万2050世帯

〔将来都市像〕 選ばれるまち柏原
 〔まちの特徴〕 大阪の都心からも近く、地域の3分の2を山が占め、中央部は大和川が流れ、自然環境に恵まれたまち
 〔特産品〕 柏原ぶどう、ミカン、大阪



柏原市長
富宅正浩



ワイン、浪華本染め、「もう、すべらせない!!」ブランド など
 〔観光〕 日本遺産「龍田古道・亀の瀬」(旧大阪鉄道亀瀬隧道など)、ぶどう狩り、高井田横穴群 など
 〔イベント〕 市民総合フェスティバル、こいのぼりまつり、柏原シテイキャンパスマラソン、かしわらスターナイトシアター など

ができる庁舎や敷地、河川敷公園を幅広く活用し、誰もがワクワクするような楽しい取り組みを進めていくことで、市域全体が活性化し、輝いていくよう努めていきたいと考えています。おわりに、柏原市が「住む」「働く」「学ぶ」「訪れる」に「応援する」など、さまざまな関わりを持つ場所として、多くの方から「選ばれる」「選ばれる」に、そして「すてきに出会える」まちに、柏原市は、そんな未来を描いています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

福澤諭吉の故郷 「磁力」「魅力」のあるまち中津

不滅の福澤プロジェクト

壱万円札に描かれている福澤諭吉の肖像は誰もが目にする身近な存在です。令和6年には洪沢栄一翁へ交代しますが、昭和59年から40年にわたって壱万円札の顔として親しまれてきた福澤諭吉の故郷

が、大分県中津市です。



福澤諭吉が青年期を過ごした旧居（国指定史跡）

大分県の北西端に位置する本市は、周防灘に注ぐ1級河川「山国川」を挟んで福岡県と隣接しており、河口付近には軍師・黒田官兵衛が築城した「中津城」の城下町が広

がっています。江戸時代には「西の博多 東の中津」と言われるほど海運物流の拠点として栄えました。このような豊かな歴史を背景に、多くの偉人を輩出しており、その代表とも言える人物が「福澤諭吉」です。慶應義塾の創設者であり、幕末から明治にかけて活躍した啓蒙思想家ですが、故郷が中津であることを知る人は多くありません。

そこで、福澤諭吉の故郷「中津」を全国に発信することで市民の郷土愛を醸成し、その教えを末永く後世に伝えるための「不滅の福澤プロジェクト」を本年から本格的に開始しました。慶應義塾、市民、市内関係団体、場所を問わずプロジェクトに共感し応援してくれる方々と力を合わせて、福澤諭吉の顕彰に力を入れて取り組みます。

先端産業が立地してきた「ものづくり」のまち

明治維新後、中津では製糸・紡績工場が立地し近代的繊維工業が盛んになります。当時、福澤諭吉らも関わり中津に最初の製糸工場が設立されました。その後も中津では、鉄鋼業、窯業、半導体産業など、その時々々の先端産業が立地・隆盛し、「ものづくり」のまちとして発展を遂げてきました。平成16年にはダイハツ車体中津工場（現在のダイハツ九州）が操業を開始し、隣県



ダイハツ九州工場と中津港（航空写真）

ががあります。これは古くから根付いている「第二次産業」の分野や厚みが増し、雇用の場が創出されていることが大きな要因であると考えています。

また、重要港湾である中津港は、完成自動車などの物流に加えて、クルーズ船も寄港し

福岡にあるトヨタや日産関連の自動車部品企業も数多く立地するなど、カーアイランド九州の一大集積地を形成しています。

地方都市に共通する人口移動の特徴として、進学や就職のタイミングとなる10代後半～20代前半の若者が都市部へ流出していく傾向があります。しかし、本市では、流出した分の人口を、その後の20代後半～30代にかけて、転入超過により取り戻しているという特徴



鉄道跡を活用したサイクリングロード



アクアパークの水上スポーツ

日本遺産「やばけい遊覧」のまち

ており、さらなる港湾整備と利用促進に努めていきます。

市内の山間には、国指定の名勝「耶馬溪」の美しい景観が広がっており、その中で紡がれてきた豊かな歴史と文化をつなぐストーリーは「やばけい遊覧」大地に描いた山水絵巻の道をゆく」として日本遺産に認定されています。代表的な景観に青の洞門・競秀峰があり、その川下には石造の8連アーチ橋「耶馬溪橋」が架かっています。美しい景観を川の対岸から眺めることができるようにと、

大正12年に建設された国内最初の観光道路施設です。現存する国内の石橋では最長で、本年、国の重要文化財に指定されることとなりました。ちなみに、国内3番目の長さの石橋「羅漢寺橋」、4番目の「馬溪橋」も本市内に現存する石造アーチ橋です。

かつてはこれらの観光名所をつなぐように「耶馬溪鉄道」が走っていましたが、現在はその線路跡が全長約35kmの「メイプル耶馬サイクリングロード」として生まれ変わっています。豊かな自然景観や歴史、食文化などを楽しみながら遊覧するサイクリングはおすすめのアクティビティです。

また、耶馬溪ダムの湖面を利用した水上スポーツ施設「耶馬溪アクアパーク」があります。波が少なく国内有数の水上ゲレンデには、関東・福岡など各地から多くの大学生が合宿に訪れ、インカレや国際大会なども開催されています。もちろん、一般の方でも水上スキー、ウエイクボード、バナナボートなどを楽しむことができます。古くから耶馬溪の景観は多くの

観光客の目を楽しませてきました。が、見るだけでなく「体験」という付加価値によって、さらに魅力を増し、今も多くの人を惹き付けています。福澤先生の教えを胸に、豊かな歴史文化、美しい自然景観や食文化などの「魅力」と、ものづくりをはじめとした産業の「磁力」で、多くの人を惹き付けるまちを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 491.44 km²
- ◆ 人口 8万2924人
- ◆ 世帯数 4万699世帯

〔将来都市像〕暮らし満足No.1のまち
〔中津〕

〔まちの特徴〕大分県・福岡県の県境をまたぐ経済圏の中心として「魅力」「元氣」を発信するまち

〔市町村合併〕平成17年3月1日、三光村、本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町を編入合併



中津市長
奥塚正典



〔特産品〕中津からあげ、鱧料理、牡蠣「ひがた美人」、すっぽん、そば、茶、小ねぎ、梨

〔観光〕福澤諭吉旧居・記念館、中津城、中津市歴史博物館、八面山、青の洞門、耶馬溪アクアパーク、一目八景、猿飛千壺峽

〔イベント〕中津祇園、鶴市花傘鉾祭、からあげフェスティバル、三光コスモス祭り、松原マツ、ホタルまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。